

読売新聞 きょう（4月10日）のイチ押し

1面 40代の地方転職支援 半年の「慣らし期間」

政府は、地方創生の一環として、大都市で働く40代前後の中堅社員の地方転職を後押しする新制度を今秋からスタートさせます。

- ★ 希望者の不安軽減のため、半年間、地方大学の客員研究員として学びながら地方企業に勤務してもらう「慣らし期間」を設けます。その間、企業が生活費月30万円と大学納付費用を負担します。
- ★ 新制度の主体は政府系の人材会社「日本人材機構」で、2019年度は長野県の信州大など2県の大学と企業が対象です。

1・社会面など 新紙幣24年度に

政府は2024年度上期をめどに1万円、5千円、千円の3種類の紙幣を一新すると発表しました。紙幣刷新は04年以来となります。

- ★ 肖像画は、1万円札が「日本の資本主義の父」と言われる実業家の渋沢栄一、5千円札が津田塾大学創設者の津田梅子、千円札が細菌学者の北里柴三郎です。500年硬貨も21年度上期をめどに刷新します。
- ★ 偽造防止策として、肖像の3D（3次元）画像が回転しているように見える「ホログラム」の最先端技術を使います。また、指の感触で識別できるマークを変えるなど、目の不自由な人にも配慮しています。

他紙と比べて

読売新聞の解説スペシャルは、時々の特ピックを深く掘り下げ、わかりやすく説明するページとして好評です。今回は、多くの人々が利用している「グーグル」を取り上げています。利用者の行動、嗜好を知った上での便利なサービスは、一層、寡占・巨大化しています。便利である反面、そこから見えてくる問題点を指摘しています。